



JR東労組 八王子

HACHIOJI



ホームページ

発行責任者

執行委員長 針谷 歩

2021/12/2 №55

11/29

八地申 二度と触車死亡事故を発生させない 第4号 ための緊急申し入れの交渉を開催！

2021年9月24日に発生した高円寺駅人身事故の際、救済のため対向列車を運転再開しましたが、消防隊員が線路上に居てあわや触車死亡事故が発生するところでありました。二度と同種の触車死亡事故を発生させないために、緊急に申し入れをし、団体交渉をいたしました。

申し入れ

3. 列車見張員を伴わない関係者を発見した際は、今回の教訓を鑑み、「危険と感じたときは躊躇なく列車を止める」ことを徹底し、乗務員の判断を最優先にし、危険と感ずることができる安全風土の構築を早急に取り組むこと。

※同じようなシチュエーションで本当に止まれるのか不安の声もある。救助活動前の隣接線運転再開時に、「救助活動前であること、支障有りと判断した場合はその場で停車」と指令の指示についても検討すべきでは？止められる感性を養うためにも日頃からのコミュニケーションが必要と考える。

指令の指示に関しては対立！

4. 今回の事象ならびに、2002年11月6日発生した JR 西日本東海道線の救急隊員の触車死亡事故、2015年10月25日中央線武蔵境駅での事象を他山の石とし、全社員に周知・教育すること。

会社回答

引き続き必要な教育・訓練を行っていく。

救急隊員が線路上に居ることを認識したが止まれなかったことについては、各現場に掲示を含めて周知している。

指令の指示についてすべてをマストでできるとは言えない。が、ヒューマンエラーは必ず発生する、現場としてどのようなフォローしていくのか議論している。各現場に掲示で「危険と感じたときは躊躇なく列車を止める」ことを周知している。

引き続き必要な教育・訓練を行っていく。

今回の事象と内容が異なるが、隣接線を列車が通過したら危険であることに変わりはない。

過去の事象教育の実現はできませんでしたが、これらの事象を知っていることで、今回

の事象に対する判断が違っていたと思われることを主張し、**全項目を終了！**

人命救助を最優先とし、危険と感じたら列車を止める！

すべての系統において、危険を感じ取れる安全風土を構築しよう！